

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第 4 2 号

(題字は支部長)

平成29年2月1日

発 行 者

蜂 須 栄

あいさつ

アクティブ・

ラーニング

副支部長 新井 弘一

現在、次期学習指導要領に向け
様々な議論がなされてきている。

中央教育審議会は二〇二〇年以降
に実施される学習指導要領の改訂
に向けた提案を、八月一日に教育
課程企画特別部の「審議のまとめ
案」として公表した。今度の改
訂では、授業の在り方や指導方法
についての改革が図られることにな
っており、キーワードは「アク
ティブ・ラーニング」だと示して
いる。アクティブ・ラーニングの
ポイントは

- ① 習得・活用・探求という学習
プロセスの中で問題発見・解決
を念頭に置いた深い学びの過程
- ② 他者との協働や外界との相互
作用を通じて、自らの考えを広
げ深める対話的な学びの過程

③ 子どもたちが見通しをもって
粘り強く取り組み、自らの学習
活動を振り返って次につなげる
主体的な学びの過程

を実現できるかどうか置いてい
る。つまり、「主体的・対話的な
深い学び」を行っていける子ども
の姿を考えている。

「アクティブ・ラーニング」は、
まったく新しい学習方法なのであ
ろうか。現場では、これまでもそ
ういった学習をしてきているよう
に私には思えるのだが。

また、過去には「基礎・基本」
や「ゆとり」等、新しく登場した
用語の解釈をめぐって、現場の教
師が困惑した事例には事欠かない
今回も現場の教師がどこまで「ア
クティブ・ラーニング」について
の理解を深めていけるのかと危惧
するのは、私だけであろうか。
「アクティブ・ラーニング」の主
旨を全教師に浸透させるためには、
行政の確かな通知・通達で現場の
理解を深めることが大切であると
考える。そのための適切な講習や

研修を行っていく必要があるの
ではないだろうか。
今日、子どもたちに必要なもの
は、「自己学習能力を高める力、つ
まり、自分で学び取っていく力を

第三十七回 大里地方教育推進協議会

第三十七回大里地方教育推進協
議会は、十一月八日(火)、来賓
四名、現職校長六十一名、退職校
長五十名、計百十五名の参加のも
と、深谷川本公民館において開催
されました。

全体司会進行を若林直樹副支部
長が担当。新井弘一副支部長の開
会のことばで定刻に始まりました。

主催者として、退職校長会蜂須
栄支部長から、本協議会は「彩の
国教育の日」の一環として全県下
で一斉に行われており、活発で充
実した有意義な会にしたいとあい
さつがありました。また、西博美
大里地方校長会長より、「一年に
一度の会、恩師や先輩の先生の前
で、恐れ多いが、先輩の先生方に
学び、前進したい」とのあいさつ
がありました。

来賓として、深谷市教育委員会
教育長小柳光春様、県退職校長会
副会長栗田憲昭様からごあいさつ

身につけること」である。教師は、
目先の事象に振り回されず長いス
パンで物事を考えていってほしい
と願っている。

をいただきました。その後で、深
谷市長小島進様の祝電が読み上げ
られ、来賓全員の紹介後、新井民
男副支部長が議長となり研究協議
に入りました。

はじめに深谷市立豊里小学校の
栗田敦校長から「地域とともに歩
む学校づくり」と題し、「地域は
大切な不易の教育の宝庫」という
立場から提案がされました。平成
二十八年度は、鼓笛隊の存続(伝



統)、深谷ネギづくり等を通して、子どもたちに自信と誇りをもたせたいと強調されました。参加者の現職校長からは、文部科学大臣表彰を受けた実績をもとに学校運営を実施しており、すばらしい実践との感想が多く聞かれました。

続いて、深谷班退職校長会の関口良子先生より「子どもの暗唱を楽しむ会」と題して提案がありました。昨年二月十四日(日)に深谷市民文化会館で開催された内容を中心に、「枕草子」「平家物語」

「論語」等から暗唱したい部分を自分で選んで、ことばと心を声にのせて暗唱しており、日本語の美しさや古典の奥深さを子どもたちの声で味わうことができたと発表されました。深谷班の松村郁己先生より偉大な深谷の先人洪澤栄一翁と論語の精神を教育に受け継ぐ実践はすばらしいとの感想が述べられました。

協議会終了後北部教育事務所田柳宏所長から、「自分は教師経験



がないが」とことわられて、ご指導をいただき、提案された二人の先生の取組にお誉めのことばをいただきました。また、北部管内の教師処分が二十七年度ゼロであったことが強調されました。

現職校長会河田重三副会長より閉会のことばがあり、会は終了しました。(文責 若林直樹)

感想

関根 正巳

そこここに柚子が黄色い実を付け秋の深まりが感じられる肌寒い日であったが、川本公民館大会議室は熱気を帯びていた。

提案一は、深谷市立豊里小学校長栗田敦先生の「地域とともに歩む学校づくり」。地域が学校を支援し、学校が家庭や地域を支援する学校応援団・学校運営協議会の成果と課題であった。生涯学習機関としての学校づくりの実践で、今後の地域と学校の在り方を示唆していた。現職の校長先生にとつては学校経営の参考に、地域で生きている私もOBには、自分に何ができるかを考えさせられる内容であった。

提案二は、深谷班関口良子先生の「子どもの暗唱を楽しむ会」。

先生の行動力・子ども愛が強く感じられ胸を打つものがあつた。「児童浴」という言葉が新鮮で、子どもの暗唱をきっかけに、子どもの心も、学校・地域も育つ素晴らしい取組であると感じ入った。深谷市教育委員会の理解と各小学

随想

剣道具事情

熊谷中央 鶴間 信好

退職を機に、NPO「日本の剣道具製作技術と剣道を研究する会」に参加し、運営を手伝って三年近くになる。その中で、いわゆる剣道具屋さん、材料屋さんとの交流を通して、最近の剣道具事情を知り、やりきれない思いとなつたので、その一部を紹介する。

① 剣道具を材料から仕立てる職人が国内に数人しかいない

剣道具の製作は手仕事となるため、人件費の安い海外に生産の拠点が移り、量産されている。剣道界も普及のために安価な剣道具を勧めざるを得ず、国内の職人の後継者がほとんど育てられて来なかつた。上級者が使用している手刺しの剣道具もほとんどが外国産

校の協力も見事で、さらに発展することを願わずにいられない。田柳北部教育事務所長の「学校を学校が独占しない。子どものため、市民のために」というご指導で、お二人の発表が時宜を得たものであると強く感じた。

であるというのが現状とのことである。

② 竹刀もほとんどが外国産である

竹刀は真竹の根元の部分(節が五つ)で作る。したがって一本の竹から竹刀となるのは一か所しかない。竹刀以外の部分は扇子の骨籠等の竹細工、箸、楊枝等の材料として用いられてきた。しかし、それらの需要が減ってきたため、国産の竹材は切り出されなくなつた。竹刀の材料が国内供給されなくなり、竹刀製造の拠点はほぼ海外に移った。現在、手仕事で竹を裂いて切り揃えるところから、仕上げまでできる職人も、国内には数人しかいないとのことである。伝統技術は伝承されなければならぬが、その技術を持つ職人が減ってきている現状は剣道具だけ

にとどまらない。現在第五次まであると言われる産業構造は、効率はいいのであるが、伝統技術の伝承という面では不均衡なものである。日本の文化が消え去ってしまう時がやってくる、すでに消え去ってしまったことを憂えずにはいられない。

祈り

熊谷中央 西木 優道

宗教評論家のひろさちやさんが次のように書いています。

ユダヤ教の話ですが、自分の家の角に煙が出ていて、消防車が走っていく。それを見て「神さま、焼けているのは、私の家ではありませんように」と祈るのは悪い祈りである。なぜか？ その祈りは他人の不幸を願っているから。家が燃えているのは事実だから、それが自分の家でないことを祈るのは他人の家であってほしいと願うのと同じだからである。（読売新聞社『まんだら人生論』）

私たちは、仏壇、寺や神社、教会等でお祈りをします。「祈り」の根源にあるものは何でしょうか。そのヒントを伊勢神宮崇敬会理事の入澤肇さんの講演会で得ることができました。入澤さんの講演をもとに私なりに考えたことをま

とめてみました。

祈りの根源は三つあります。それは、「感謝」「懺悔」「願う」ということです。

① 「感謝」の祈り

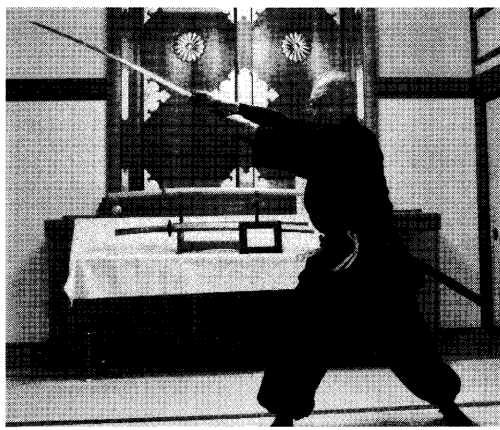
一つのことを成し遂げることができた時や今日一日を無事に生活することができた時など、仏や神に報告し感謝する祈りです。

② 「懺悔」の祈り

人間は完璧ではありません。やってはいけないことを行ってしまった時やルールを破ってしまった時など、仏や神に報告し反省をし懺悔する祈りです。

③ 「願う」祈り

自分自身、あるいは家族など他の人の目標の実現や健康、幸せなどを願う祈りです。自分の願いごとをするには良くないという人



奉納演舞 1

がいますが、私はいいと思っております。ただし大切なことがあります。それは未来をよくしたいと考えて自ら努力し、そこに仏や神の加護を願うという姿勢です。

にあつた作物づくりはこれからという状態です。さて、仕事の方ですが、事務局の仕事であり連絡・調整が中心となっています。どう伝えれば正確に伝わるか、もつと簡略にできないか、今やっているやり方でのいか、無駄な作業ではと不安もつきまとうものです。

晴耕雨読の日々

熊谷東 橋本 耕作

退職して一年半あまり、市の社会教育の仕事に関わりながら田畑の草退治が中心となっています。

ご近所に迷惑をかけないようにという趣旨での晴耕です。そうはいつても自宅で食べる程度の野菜は母が育てており新鮮なものを食べるのができていました。しかし、母が八月に急逝したものですから、野菜づくりもはじめてという状態で取り組むことになりました。先日は玉ねぎの苗を植えました。白菜も植えました。知人たちからは「今植えても白菜は巻かないよ」と言われています。せっかく蒔いた種が芽を出し育ったものですからダメもとで植えてみたのです。（多分巻かないでしょう）蒔き時、植え時、追肥時など時季

そんな折、本の中に次のようなことが書かれていました。

やるのが無駄かどうかは「目的」と「時期」を決めることで判定すればよいということ。

(例) アリの行列の中には餌を運ぶのをサボるアリが二割ほどいることが知られています。一見するとこれらのアリは無駄のように思えますが、たまたま別の餌場を見つけてきたりもします。つまり餌を運ぶという目的では無駄ですが、巣全体の存続という目的では決して無駄ではありません。つまり、「いつ役立つのか」という期間を設定しないと無駄かどうかは決められないのです。世の中、無駄だらけという人はこの期間が短く、逆に世の中無駄なものなんてないのよという人は期間設定が長いのです。

さて、自分はどう使い分けていくのかと……。

人権教育に携わって

深谷中 小林 富治

退職して、早いもので二年が過ぎようとしている。現在、私は深谷市の人権政策課の人権教育専門員として、週四日勤務させていただいている。

先日、仕事の関係で、北朝鮮に拉致された蓮池薫氏の講演を拝聴する機会があった。講演の中で、

蓮池氏は、大学生の時に地元の海岸で拉致され、北朝鮮に連れていかれたこと、北朝鮮ですべて失い絶望した気持ちだったこと、結婚して子どもができた北朝鮮で生きるしかないと思ったこと、子どもをおいて日本に戻ってきた時のことなどを話された。これらの話を聞き、拉致はいかに残酷なことかと思ひ知らされた。会場にいた人たちは皆、拉致問題の一刻も早い解決を願ったのではないだろうか。

私は現在、主に公民館主催の研修会で地域の方、小中学校で児童生徒や先生方、保護者の方々を対象に人権講話をさせていただいている。講話を聞いてくださる方々に、わかりやすく参考になる話をするために、様々な資料を読んでいる。私自身初めて知ることも多く毎日が勉強である。しかし、教



奉納演舞 2

員時代とは違った新鮮な気持ちで働いているような気がする。

最近一番思うことは、この仕事の影響で、自分自身が変わったと感じることである。講話で、女性の人権や男女共同参画社会のことを話すことがある。その時、今までの自分はどうかだったか振り返ることがある。若い時、部活動に夢中だった頃は、家庭のことはほとんどやらなかった。男は外で仕事、女は家事育児が当たり前というような感覚だったのだと思う。今はそんな考えではいけないと話をしていく立場である。

現在は、妻より先に帰ることが多いので、今までの罪滅ぼしの思いを込めて、できる家事をするようにしている。これからも健康を第一に考え、楽しく毎日を過ごしていきたいと思う。

地元の魅力探す楽しみ

熊谷北 小島 一郎

自宅近くの福川に、自転車に乗るの向くまま走らせ菜の花などが楽しめる遊歩道が、昨年五月の連休中に完成した。今はその道を通り利根川を散策するのが自分のサイクリングコースとなっている。

今日もナツプザックにカメラを入れて、川の土手をチリリンと景色を眺めどこまでいけるかな。川面に水鳥が静かに泳いでいる。思わずシャッター。鳥たちに気づかれ、羽ばたいて移動されてしまった。

築（流れをせき止め、魚を捕らえる仕掛け）の近くにいた釣り人を見つければ「釣れましたか」と聞くと「釣れたよ」と両手で大きな鮎を空にかざした。思わずシャッター。足下の枯れた草の間に春を待つツクシが隠れ、土手にはホトケノザの花、水辺にはフキノトウが顔を出している。冬の日差しを浴びている草花に「頑張れ、春はもうすぐ」と声をかける。

利根川に出ると、景色も変わり川幅も広く、出発の時遠くに見えるいた利根大堰が目の前にある。結構頑張り、遠くまで来たものだ。帰り道、グライダー滑走場で一

休み。母親と立っていた女の子が、私にむかってかわいい声を張り上げて、「こんにちは。私、三歳です」と。ホントに驚いた。あいさつだけでなく。ちゃんと自己紹介もついていた。とっさのことに、私は「こんにちは。お利口さんだね」とだけしか返せなかった。しかし、その日一日幸せな気持ちに浸れたのだった。

お腹がすいたので、聖天様で一休み。「あの食堂、一月末で店じまいだつて。できてから百年以上とか言っていたけど」との話が伝わってきた。私は利根川で行われた花火大会のことを思い出した。花火の後、この食堂でラーメンを食べるのが楽しかったのだ。町の活性化が叫ばれている今日この頃だが、また一つ街の灯りが消えていくのは時代の流れなのだろうか、寂しさを覚えた。

五輪報道と家族

深谷中 松嶋 猛

リオ・オリンピックにおける日本選手の活躍に伴って、メダリストを称賛する特集が多く報道され視聴者に夢と元気を与えてくれた。栄光の陰に凄まじい努力があることは漠然と想像できるが、「裏側に隠された血のにじむような努力の

実態とそのチャレンジ精神を支えているものは何なのか」ということに強く興味を引かれた。なかでも、選手を支え続ける家族の苦勞と思いの強さに胸を打たれる場面が多く、家族の在り方について考えさせられた。競技との出会いを両親がつくっている場合も多く、その後両親が直接技術指導をしたり、自宅を練習場にする等練習環境と練習時間の確保に幼い時から取り組んできていた。子どもの特性を磨くとともに同じ夢を追い続けてきたこともさることながら、

「同時に多くのことを犠牲にしてきた」という言葉が強く心に響き愛情を越えた信頼の深さを感じた。オリンピックでの活躍は、太く強い絆があったからこそ成しえた偉業であるが、選手自身がさらりと語っているエピソードも「物語ではなく、全てが実践されてきたことなんだ」と思うと、その凄さに改めて尊敬の思いが湧いてきた。一般的な親子であっても、子の夢を共有し、親は一心にその夢を支え続けることの大切さを教えていただいたような気がする。

同時期に今年度上半期の児童虐待通告件数（警察署から児童相談所への通告）が、埼玉県は全国で二番目に多かったという不名誉な

記事を目にした。虐待そのものが通常信じがたい行為であるが、親として我が子に対する関わり方の違いに愕然とした。これらの親はオリンピックや関連報道を観て何を感じているのだろうか。教育に関わってきた者の一人として、親の在り方や家庭教育を見直すきっかけになつてくれることを期待せずにはいられなかった。

晴耕雨読

熊谷南 堀 喜久男

退職し二年目を迎えている。心静かに時が流れていく中、幸いにも学校に関わる仕事に就かせていただいている。前期の学校訪問を終え、多くの学校で耳にした「ありがとうがとうがいつぱいの学校」が心に留まつた。

私生活では、週休三日制で現役の時と比べて時間が有りそうだが、これが案外忙しい。人の手を借りず、当たり前前にできていた生活ができなくなつてきている四人の親の状況がある。生活拠点も自然と実家で過ごす時間が増えてきた。

実家の屋敷内には庭畑があり、代々、そこで自給用の野菜を育て、お裾分けもいただいていた。何よりありがたいことは、目が届き、

年寄りにも容易に家まで運ぶことができ、味は別にして、鮮度は一押し野菜に出会えることである。今年私は私の手が必要になり、野菜作りに挑戦している。親の教えや園芸書をたよりに、見よう見まねではじめた野菜作り。春先、土作りからはじめた。土を耕し、さくをきる。種を蒔き、苗を植え、支柱を立てる。収穫までは水の管理、追肥、土寄せ、除草作業と毎日の仕事には事欠かない。この一年、野菜作りに限ってみても、も

らうだけの生活から自分からやる、言われたことはやる生活へと変化があった。自分の気持ちの中では親ができないところは自分の仕事と当たり前のこととしてやってきた。しかし、ここに来て親の言葉の中に「ありがとう。助かる」というフレーズが増えてきているよ



上からの不倒切り

うに思える。庭畑には今、秋野菜が緑濃く育っている。今日は意気高く、獲りたての野菜を持ち帰った。しかし、妻から私への「ありがとう」という優しい一言はない。ふと見た流しの先で目にしたものは、野菜の入った真新しいレジ袋。ちよつと気になるところである。

今は、充実しているが

寄居 木村 親雄

月末の休日になつたので、区内八か所のゴミ集積所に翌月の不燃物等の収集予定日を貼り替えに出かけた。爽やかな日でもあったので、健康を考え、自転車で一時間半程かけてのんびり回った。途中、金木犀の花のいい香りがあちこちからしてきてきた。三十年以上も住んでいる所なのに、いつもとは違う新鮮な感じを受けた。

衛生委員の仕事が始めて六か月程になる。「長年お世話になつている地域のために何か役に立つことがあれば」との思いもあつたので、快く引き受けた。仕事は、ゴミの管理が中心であり、その内容は、「週二回の可燃ゴミの収集状況の確認、月二回の不燃ゴミの分別、月一回の可燃粗大ゴミや資源

ゴミの回収の見届け等」である。また、担当する組代表へ回覧物を配布したり、体育祭等の諸行事に関わったりしている。これらの仕事に愚痴が出そうなこともあるが、やり甲斐も感じている。「今、スムーズに仕事が進められているのは、何か問題があればその都度よりよく解決し、改善してきた先輩方のご尽力のお蔭である」と今更にはあるが感謝している。

区長や道路委員とは、月一回定期的に打ち合わせや配布物の仕上げをしている。顔を合わせると、仕事のモチベーションが下がらないように、互いを労い、残された任期を確認している。正直、一年だから頑張れているところもある。この仕事を通し、「地域・人・先輩方の苦勞」をこれまで以上に知ることができた。貴重な経験を得たことに感謝している。次の方によりよくバトンタッチできるように、残された日々、最善をつくしたい。

退職して三年になる。第二の人生を充実させるための設計図は描けていない。現在は、週三日間の勤務と衛生委員の仕事があり、有意義な日々を過ごしている。この時期に、新たな生きる楽しみを探さなければと思っている。

同好会だより

写真同好会

岡部 弘行

同好会の一こま紹介。
今回は久々に外へ出て撮影会となった。場所は横瀬町、県内第一の棚田と今が旬のヒガンバナが目当て。道の駅花園に集合、十時に棚田に着いた。天気は高曇り、目の先に武甲山という絶好のロケーション。一時間ほどは各自で撮りまくり。昼食まで時間があつたので久那の久昌寺で弁天池などを撮り、長瀬でおいしいソバを食べながらの語らい。写真の会でありながら写真のことはあまり話題にのぼらないのがいい。帰りに立ち寄った寄居の五百羅漢もよかった。

囲碁同好会

深田 忠雄

◎春季大会成績 五月十四日
優勝 若林直樹
準優勝 山室鐵夫 深田忠雄
◎秋季大会成績 十一月十九日
優勝 山室鐵夫
準優勝 若林直樹 深田忠雄
平成二十八年三月、英国のゲール社の人工知能「アルファ碁」

と、世界最強棋士の一人、韓国の李九段が対戦。通算して「アルファ碁」が四勝一敗で勝ちました。三月十五日の朝日川柳
人間は人間同士ざる碁打ち
なるべく、明るく、楽しく考え
て、ゆつくりやりましょう。

絵画同好会

金子 泰

本年度の活動は、年四回の実技研修と水墨画同好会との絵画作品展です。
活動の概要について述べます。
第一回は、別府沼公園で写生をする計画でしたが雨天で中止になりました。
第二回は九月に川本公民館で静物画の研修を行いました。この時は参加者が多く喜ばしいことでした。
第三回は十一月に別府沼公園で秋の紅葉をテーマに野外写生を実施しました。
最後の四回目は寄居を会場に人物画の制作をします。

水墨画同好会

篠崎 忠男

水墨画同好会は深谷公民館を会場として月二回定例会を開いています。
水墨画は墨と硯と筆と用紙があれば対象を作品に上げることが出来ます。

定例会は二〜三時間ありますが、風景画などの作品を完成させるのは無理です。スイセンの花などは可能です。

指導者の小林芳雄先生には作品の裏打ちを、実習を通して教えていただきました。
大里の作品展には四人が出品、計六点が展示されました。



下から上からの連切り

茶道同好会

吉田寿美子

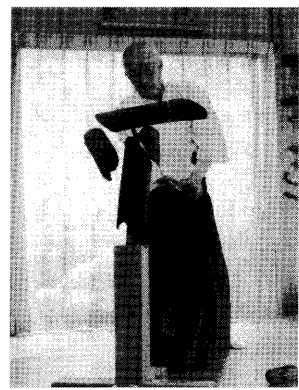
毎日ガサガサと生活している私を月一回の茶道が別世界へと導い



てくださいます。

座敷を清め、茶道具を洗い、準備する。床の間の掛軸と花入れ、先生や会員のお話等、普段味わうことのない落ち着いた中での体験。私はとても不器用で、茶碗を茶巾でふく左右の手の所作、茶筌で快い音を「カツ」と出すことや茶筌の細やかな動かし方等なかなかできません。先生は実に丁寧に教えてくださいますが、のみこみが

悪いのです。でも、大いに脳を刺激していることは確かだと思えます。



下から上から横からのT字切り

地区だより

不動岩の由来に想う

熊谷西 来間 平八

熊谷市西部の別府地区には、古代や中世の遺跡や遺構が多く存在する。別府沼水源地の古代祭祀遺跡、古代の廃寺跡、安楽寺九品仏堂、湯殿神社、別府城址などであるが、この城兵たちは体がたるんで動けないうち湯殿神社の御手洗池にある「不動岩」については、室町期の戦記物「後太平記」上巻第八に不思議な奇瑞が語られているので紹介したい。

室町時代の康暦二年(一三八〇)五月、下野国の小山義政と宇都宮基綱が争い、小山氏が勝つと国中が乱れてしまった。そこで鎌倉府の足利

佐馬頭氏満は小山氏を討たんと鎌倉を発ち、武蔵国幡羅郡の別府丈六(九品仏堂の所)に陣を張り、そこから井殿明神を伏し拜んだ。すると神殿鳴動し、芦毛の神馬に乗った祭神が現れ、利剣一閃、雷鳴の如き大音声とともに鏑矢一本を放つと、矢は下野の方へ飛んでいった。(中略)その夜、小山義政殿神社、別府城址などであるが、この城兵たちは体がたるんで動けないうち湯殿神社の御手洗池にある「不動岩」については、室町期の戦記物「後太平記」上巻第八に不思議な奇瑞が語られているので紹介したい。

この話は単なる伝説にすぎないが、郷土を豊かな地にする話といふ把え方はできると思う。

役員・理事研修会

H 28・9・7

焼き物への思い

会田不死人氏

画家で陶芸家でもあった父親、邦楽をよくした母親……、ご両親のことから語りはじめました。

縄文土器・土偶、弥生式土器は多くが女性の手によって造られたらしいこと。古墳時代になると、埴輪を造ったのは専門の男の職人だったこと。その後、実用的で広く民に用いられた土師器、貴族や役人に食器や祭器として使われた須恵器……と、日本の文化を支えてきた「焼き物」について、実作者の思いを込めて熱く語られました。後半は、自作のオカリナ演奏。

まずは、秋の名曲メドレー。

「野菊」「もみじ」「里の秋」「赤とんぼ」、日本の秋の光景が目の前に浮かびました。

宗次郎の「大黄河」のテーマでは、悠久の大地を滔々と流れる大河の情景が、喜多郎の「シルクロード」のテーマでは、遙かな西域への憧れと砂漠を行く隊商の列と熱い風とがイメージされます。「川の流れのように」「秋桜」に

は、女の一生あるいは半生をしみじみと振り返られました。オカリナの澄んだ音色に心のすみゆく想いが重なり、眠っていた想像力をかきたてられる演奏でした。

写真の説明

紙面を飾る写真は寄居班木島宏先生に提供していただきました。

先生は数年前の鉢形城歴史館主催「埼玉の刀展」で行われた古武術武源流宗家・修道館館主、山口洞龍翁の演舞に魅せられ抜刀術の撮影を始めました。

写真は宝登山神社での奉納演舞と皆野修道館道場での不倒切りを披露した山口翁の勇姿です。レンズと刀の真剣勝負で紙面からも気迫を感じます。

計報 平成二十八年

氏名	年齢	逝去月日	地区名
吉田 文一	68	2・1	深谷北
杉山 孝行	91	2・20	熊谷中央
国松 進	86	8・9	深谷北
落合 芳夫	93	9・27	熊谷西
石原 茂男	85	11・2	深谷南
木村 巳美	87	11・12	熊谷南
奈良 治雄	88	12・1	寄居
大谷 清一	101	12・2	寄居
大塚 勇	83	12・21	寄居

謹んでご冥福をお祈り申し上げます



文芸

短歌

老の坂道

熊谷中央 福島 茂徳

挫けてはならぬならぬと励まして
老の坂道我のほりゆく

好きな事にうちこめる自由有難し
束縛もなく思いのままに

老ゆるとも己の心に負けるなど
励まし生きる人生一度

感謝

熊谷西 岡田 菊江

女性でも職業持てと育てくれし
母に感謝し定年迎う

医者伯父帰り来る度我に言う
「教師になりて岡田家守れ」と

県視学になりたる祖父の弟が
育てたる人我を励ます

入院生活寸描

深谷北 高松 明子

六時間の手術後の医師麻酔から
覚めしばかりの我を労う

我よりも私の体をよく知りて
叱りてくれし病院のスタッフ

夜来の雨止みし病院の大窓に
パラグライダー陽を受けて舞う

古いと向き合う

寄居 高橋 信安

篤農も老いには勝てぬか姿なく
荒れる田畑に世相が哀し

朝散歩友との会話が楽しみで
迫る老いの身吾を励ます

暮れなずむ外秩父の山並み厳かに
亡妻との日々がいたく懐し

俳句

虫それぞれの秋

熊谷北 島田 道郎

晴れあがる空の青さや赤とんぼ

敷石の下に穴あり虫の家

ちちろ鳴く今宵一泊里帰り

秋黄蝶もつれもつれて垣根越え

秋茜尻点点と池の面

詩

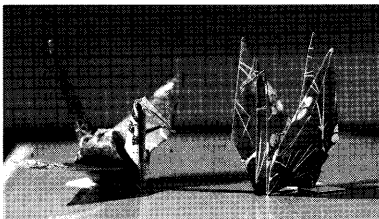
あなたの折ったつるは

熊谷南 福島 滝雄

あなたの折ったつるは
どこまで飛んでいくのだろうか
ヒロシマの空から世界の空へ
やがて
七十億の人々の胸に

そのつるを折りながら
あなたが込めた「思い」を
核廃絶への強い意志を
たとえ 明日でなくても
いつか きつと
その日がくることを
私は信じたい

あなたの「思い」は
そのまま私の願いなのだから
胸に灯った小さな火よ消えないで



オバマ大統領のつる

●●編集後記●●

「おゝさと」第四十二号をお届けいたします。

寄せられた原稿からは、教育の動向、社会の課題、自らの生き方の模索、祈りや感謝など崇高な精神等が、心に深く伝わって来ました。それだけでなく、一瞬を切り取った写真に背筋が伸び、趣味や同好会の「ゆとり」ある記事に息つくこともできました。編集を通して「今を輝いて生きる」ことの大切さを改めてかみしめています。貴重な原稿をお寄せいただいた皆様方に、心より感謝申しあげます。

平成 28 年度 広報部員

郎 男 守 美 夫 子 一 巳
一 光 正 辰 佐 章 正
喜 本 田 井 橋 瀬 島 上 澤 根
塚 角 新 大 廣 福 井 大 関

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第四十二号)

発行 平成二十九年二月一日

発行者 支部長 蜂 須 栄

印刷所 光陽社印刷所

熊谷市本町一丁目一〇

(〇四八)五二一〇七五七